

Lazare BRUANDET

ラザール・ブリュアンデ (1755-1804)



池のそばでの狩り

キャンパス・油彩

24.4x32.8cm

※ バルビゾン最初の画家 ※

Lazare BRUANDET

ラザール・ブリュアンデ (1755-1804)



作品名 池のそばでの狩り

種類 キャンバスに油彩

サイズ 24.4x32.8cm

右下にサイン

略 歴

※バルビゾン派最初の画家

バルビゾンに最初に訪れ最初に定着した画家であり、先駆者である。

フランスの画家。パリに生まれ、同地で没。

ロゼとサラザンの弟子。コローや他の画家がバルビゾンで制作をする前の18世紀後半に

フォンテーヌブローの森を描いていた。また、ルソーやミレーがバルビゾンに住む前に

既にバルビゾンに住んでいた。1791年以降1804年までサロンに出品した。

妻の死に関して殺人の容疑をかけられ、裁判で「バルビゾンとフォンテーヌブローの

森の外には出てはいけない」との判決を受けた(妻は建物の二階から転落した事故死であった、

と言い伝えられている)。

ルイ16世は、フォンテーヌブローの王家の獵場から獲物無しで帰った1789年7月14日の日記に「猪とブリュアンデしか見かけなかった」と記している。